

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます

SSKP いずみ

No.
167

2012年 12月

※社会福祉法人 泉会※

法人本部
泉の家

〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) ☎03(3417)3463
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/

日の出舎
就労日の出舎

〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) ☎042(597)2205
info@hinodesha.org
http://hinodesha.org/

グループホーム
いずみ

〒197-0825 あきる野市雨間322-12
☎042(550)9083
bwz12948@nifty.com

岡本福祉
作業ホーム

〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) ☎03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/

岡本ホーム
玉堤分場

〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) ☎03(5707)9433
tamatotumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamatotumi/



商店街のイベントに毎年参加しています(玉堤分場)

『心を洗う』

理事長 橋向敏治



今年も国内外の政治・経済・社会で多くの出来事がありました。師走を迎え、時の経過に思いを馳せます。弱い立場の人が、ますます生きにくい時代になりつつあるように感じます。生きてゆく上では、悩み、苦しみ、傷つくことが生じます。傷つくことを恐れるのではなく、傷ついても回復する力を養い、相手をもって自己の成長に転換できれば幸いです。

心が弱くなった時にいろんなものが誘惑として入ってきます。また一時的に気持ち静まったようでも心の汚れは何時か再び浮上してくることがあります。

外出より戻り手を洗うように、悔しき、怒りを洗うことが出来ればと思います。心を洗うのに効果があることは、信頼している人に悩みを聞いてもらう事ですが、なかなかタイムリーに相談できないのが現実です。額に汗をするほどの厳しい肉体労働や写経により心の雑念が消えることもあります。ケースバイケースで洗う方は、人それぞれ異なるようです。

心のよこれを洗って自分を見つめる大切な一時でもあります。希望と感謝の念を失わず、互いに支え合い、光の内に降誕節を迎えたいと存じます。皆様のご支援を今後ともお願い申し上げます。

文化活動の取り組み

日の出舎

「森林公園アートフェスタ」

月に一度、群馬県立女子大学の奥西先生にお越し頂き、「造形クラブ」が開



皆で見学に行き記念撮影しました（真珠の耳飾りの少女）

かれています。利用者の方は、絵画、粘土細工等、とても和んだ雰囲気の中で作品作りに取り組んでおられます。

その奥西先生は、日の出舎の造形活動に長く携わっていただいております。埼玉の国立武蔵丘陵森林公園で開催される「森林公園アートフェスタ」では実行委員会の代表を務めておられ、毎年日の出舎にもご案内下さっています（昨年は日の出舎建替えて出品できませんでした）。

その「森林公園アートフェスタ」に、今年も出品出来る運びとなりました。日の出舎で取り組んだ作品は「真珠の耳飾りの少女」。今年、東京都美術館で行われた「マウリッツハイム美術館展」の目玉の絵画で覚えのある方も多数いらっしゃると思います。

作品づくりは7月21日の「日の出舎アートフェスティバル」にて開始されました。年に一度土曜日に行っている活動



真珠の耳飾りの少女～日の出舎納涼祭でも展示しました

で、奥西先生もお越しいただいています。作品は日の出舎で作られているドミノ倒しの木片（24mm×42mm）を約4000個使用し、色数を8色（黒、白、黄、赤、青、紫、緑、水）のみで表現します。4000個の木片（つひとつ）に色を塗るのも「苦勞」と思いきや、利用者の方のパワーは想像以上で、二日だけで七割ほど塗り終えてしまいました。残りの制作は普段の日中活動の時間で行い、木片を並べる工程も利用者で協力して行っていたいただき、二足早く8月の納涼祭に地域の方々に見て頂くことが出来ました。



これはまさに芸術作品（他の芸術家が作ったものです）

10月6日には森林公園に無事搬入を終え、12月25日までの長い期間、展示される予定です。

日の出舎の造形活動は、「造形クラブ」のほかにも日中活動として「創作活動」を行っており、日々楽しい作品が制作されています。今後の活動は、今回の様に外に向けて積極的に発信していく活動にしたいと考えています。地域での作品展等、発表する機会をより増やすことにより、制作意欲が喚起され、作品の質も向上すると思います。それが自信にも繋がり、作品を通して様々な方たちと交流が生まれ、「アート」を通して、作品だけでなく自分自身の生き方をもデザインして頂く事が可能だと思っています。

（森 敏彦）

泉の家

「地域の方に支えられ」

泉の家での生活介護の活動に職員は、日々頭を悩ませています。

というのも、泉の家の生活介護は、現在18名の利用者が通所していますが、年齢は18歳から70歳までと幅も広く、障がいも身体障害・知的障害・精神障害と様々な利用者の方がいます。

職員も日々様々な活動を模索していますが、活動の幅も狭くなりがちです。



こより工芸・ペン立てと、かごバック

そのような現状ですが、少しずつ様々な活動をする事が出来ています。

それは、生活介護の活動には泉の家の職員だけではなく地域のボランティアの方々に協力していただいているからです。

昨年度は年間で252名のボランティアの方に来所して頂きました。

ボランティアの方の中には、社会福祉士や介護福祉士・介護等（学校の先生になる為の実習の実習生の方々が、実習後もボランティアで参加してくれています）。

実習後もボランティアとして参加していただける事に本当にありがたく思



先生！むずかしいよ～♪

います。

また、学生の中には、世田谷総合高校の体験学習の高校生や砧南中学校の職業体験の中学生も来所してくれています。その後もボランティアで参加してくれる中高生もいます。学校での授業だけでなく、その後もプライベートで活動に参加してくれていることに、利用者の方々も職員もうれしく思っています。

毎週活動している音楽活動で、ピアノの弾き語りボランティアをしていただいている野澤さん。音楽活動は、年齢も障がいも関係なく18名の利用者が一体となって楽しむ事ができます。生演奏は、カラオケやCDと違い聴く人や歌う人の気持ちを伝えることができるので、泉の家で欠かせない活動のひとつです。伴奏をしていただいている野澤さんは、あすなろ会をきっかけに個人的なボランティアを続けてくださっています。

音楽活動の他に人気のある、創作活動では、月に二度講師を招いて「こより手工芸」で、かごバック、季節の品である兜などを作っています。毎月、職員も利用者の方と一緒に四苦八苦しながら参加しています。苦勞して出来た分、完成できた際は、嬉しい気持ちで一杯になります。

講師は、舟橋先生と佐藤先生です。舟橋先生は夫妻で講師をしていただいています。

今年、9月8日（土）の施設公開でプロッチ作りの講師として参加して頂きました。

生活介護では、毎月創作を練習しているのですが、地域の小学生やお母さん方に先生役することができました。

地域の方とまた違った触れ合いをすることができた行事となりました。

日々の活動に地域のボランティアの方々は欠かせない存在です。

この場をお借りして、感謝致します。

（本田 羽瑠香）



生演奏は最高ですよ～♪

岡本ホーム

「織りがつなぐ地域の輪」

「愛の反対は憎しみではなく、無関心である。」

最近この言葉をコマーシャルで耳にすることがあります。これは新聞のコマーシャルで、天声人語に取り上げられた「節、マザーテレサの言葉です。しかしここ岡本では無関心とは無縁だと私は感じています。」

オープンザドアの織物体験コーナーのコースター作りには多くのボランティアの方や、利用者のご家族がお手伝いに来て下さりました。また、たくさん

の近隣の方々に来場頂きました。織り機は普段はなかなか見ることができません。一人でも多くの方に体験していただきたいと思っていました。足踏み式織り機を2台、卓上式織り機を2台の計4台を用意したところ、順番待ちが出るほど多くの子どもたち



オープンザドア織物体験コーナー大盛況！

るで織ったり、立ちながら力を入れたり、トントン、ガッシャーン、と口ずさんでたり、お母さんの膝に乗って織っていたり、何回も織りに来て、次はお友達に教えてあげている子どもたちもいました。子どもたちは真剣で、眼が輝いていました。新しいことにチャレンジする、何かを作り上げる子どもたちには無限の可能性があります。そのきっかけのお手伝いが出来たと思っていま

います。お願いした商品の他に、アレンジをして、今までにないバッグを作った下さったりもします。織物の余り生地が出ないように、小物にも変身させて下さいます。こうして、利用者が一生懸命作られたものが、販売会などで、皆さまにお買い上げいただいているわけ



トントン〜♪織り作業中〜

の皆さんがひと織りひと織り心をこめて織っています。個人差はありますが、約3か月〜1年半かけて完成します。こうしてひと織りひと織り作られたものを作品にするのは、職員の他、縫製ボランティアの方です。皆様忙しいなか、とても丁寧で綺麗に作って下さ



織り製品いろいろあります！

です。すべてにおいて、皆さんの協力がなくては何も出来ません。ボランティアの方、利用者のご家族、近隣の皆さん、誰もが岡本ホームに関心を持って下さっているお陰だと思っています。ここは無関心とは程遠い世界で、愛の繋がりのなかで働けることを私は誇りに思っています。

(内井 万起子)



玉堤分場

「物作りを通しての繋がり」

玉堤分場では、普段行っている作業を体験してもらう「体験教室」を開き、地域の方々に物作りを楽しんでもらっています。

体験教室には、施設へ来てもらう「工作教室」、依頼のあった場所へ出張して体験教室を開く「出張教室」の2種類があります。

工作教室は、小学校や幼稚園の夏休みと春休みに合わせて毎年開催していますが、毎年たくさんの子供たちが遊びに来てくれます。毎回来てくださる常連の子もおり、会うたびに大きく成長していき、会ったときに嬉しく感じます。また、お客様からいつもと違う物作りもしてみたいと要望があり、今年は祖師谷にある施設「わくわく祖師谷」の協力のもと、パン教室も開催致しました。お客様にはとても好評で、また、他施設との関わり



うまくできるか一緒にドキドキしちゃいます

りもできたこの企画は、より広く地域と繋がる良い機会となったのではないのでしょうか。

出張教室は小学校の授業の時間や、小学校BOP、介護保険施設のデイサービスで主に開催しています。デイ

サービスへは、2箇所に定期的に行かせて頂いていますが、毎回参加して下さい。また、お客様からいつもと違う物作りもしてみたいと要望があり、今年は祖師谷にある施設「わくわく祖師谷」の協力のもと、パン教室も開催致しました。お客様にはとても好評で、また、他施設との関わり



大好評だったパン教室！いろんなパンができました。

間内に終わらせるのがとても大変です。ですが、子供たちの予想外の行動やお喋り、作る作品はどれも新鮮で、利用者の皆さん、忙しくても笑顔が絶えません。教室が終わった後も、「人数多かったね」「間に合ってたよ」「今年はこの子供がいたよ」「今の子供たちはうだ。」等、やり遂げた達成感と共に、とても嬉しそうに語って下さいます。

このように、工作教室・出張教室を通して、利用者や地域の方々が同じ作る喜びや、失敗した悔しさ、作り上げた達成感・体験した時間を共有すること、より地域との繋がりができていくのではないのでしょうか。



(伊達 紫瑞)

また、活動を知っていただく機会となるよう、今後も積極的に体験教室・出張教室を行って行きたいと思っています。

○出張教室のご依頼を承っております。
ご希望の方は下記の連絡先にお問い合わせください。

○問合せ先
岡本福祉作業ホーム玉堤分場

担当：津島

TEL：03-5707-9431

E-mail：tamatatumi@izumikai.jp

泉の家だより

『日帰り旅行』

9月29日（土）に八景島シーパラダイスに日帰り旅行に行ってきました。今回は、泊旅行に行けなかった利用者の方11名と、職員11名が参加。台風が接近する中、天候が不安でしたが、晴天となり過ごしやすいい日となりました。

八景島に到着するとグループごとに分かれ、アクアミュージアム・ドルフィンファンタジー・ふれあいラグーンを見学しました。少人数のグループだったので、それぞれが行きたい場所をゆつたりと観覧できました。

施設内は、上曜日という事もあり混雑をしていましたが、車椅子専用のエレベーター（業務用）を使用することができたので、とてもスムーズに館内を回ることができ短い時間でも楽しむ事ができました。アクアミュージアムでは、大きな水槽の中にエイや亀が悠々と泳いでいました。

中でも5万匹のイワシの大群は圧巻でした。利用者も自然に笑みがこぼれていました。楽しみにしていたイルカ



お土産どれにしようかな～♪

ショーは利用者の方々全員で観賞しました。ショーの間は笑顔で手を叩き、声援も送られていました。

昼食はホテルのビュッフェで、とても豪華でした。利用者の方々は、好きな食事を自分で選び、何度もお代わりをしながら、いつもの食事以上にたくさん食べ、たくさん笑いながら楽しめました。

お土産売り場でも、1日の思い出を話をしながらジンベエザメの風船やイルカのお饅頭などを購入していました。短い時間でしたが、とても充実した1日となりました。

（木下 菜穂）

分場だより

『高次脳機能障害ガイドヘルパー実習に協力しています』

玉堤分場は、脳血管障害の後遺症である「高次脳機能障害」を持つ利用者が多く通所していることからガイドヘルパーの制度ができた時から年2回20名程度の実習受け入れをしています。



浅草、雷門前でパチリ！

総合福祉センターで、高次脳機能障害について講義を受けた実習生（と言ってもプロのヘルパーさんたちですが）が、分場で1日実習をされます。活動



平日でも水上バスは大人気

を通して、失語症にはどのような伝え方が分かりやすいか、注意障害にはどのような声掛けが必要か、遂行機能障害にはスケジュールを書いて渡すと分かりやすいなど具体的な関わりを学んでもらいます。10月の実習では、買い物と1日外出に付き添ってもらいました。終了後の振り返りでは「会話をしながらの難しかった」「表情が硬かったが、思い切って話しかけたら話ができた」「作業とは違う表情が見られた」「自分に気を使ってくれた」「関わり方の参考になった」などの感想が聞かれました。

（上原 絹代）

日の出舎だより

『俺の一人旅』 『野村晃さん』

日の出舎の野村です、俺の思い出の一人旅は去年の春に秩父へ行った事だ。朝早くからJR→八高線→秩父鉄道と電車乗り継ぎ、お花畑駅へは午前中に到着し、駅でSL（パレオエクスプレス）の写真を撮った。



SLパレオエクスプレス

丘、面、白やピンクや紫の芝桜の向こうには、武甲山がそびえ立っていて、すごくきれいな景色だったので、そこで何枚も写真を撮った。

羊山公園の芝桜を満喫した後は、再びお花畑駅まで戻り、時間を合せてSLの写真を撮った。それから西武秩父駅にある仲店通りまで徒歩で行った。仲店通りでは秩父の特産品を見たりして、お土産も買った。

帰りもお花畑駅から乗車したが、途中の乗り換えでは電車の本数が少なかったため、待ち合わせ時間が多かったが、電車好きの俺は駅での待ち時間もまったく苦にはならず家には夕方に到着した。

きれいな景色やSL、色々な電車も見れてとても思い出に残る旅だった。

（聞き取り 構成 三上 崇）

岡本ホームだより

『健康にいいものを食べて元気になるっ！』

「バランスのとれた食事について」と「野菜を食べよう」というテーマで栄養士からの勉強会を行いました。望月栄養士からスライドやパンフレットを使いながらの説明があり、「バランスのとれた食事について」では実際にスライドを観ながら主食（黄色）、副菜（緑）、主菜（赤）の3色に分けた食品群の説明と、メニューの組み合わせを行いバランス良いメニューを皆で考えました。岡本ホームでは園芸作業で「きゅうり・プチトマト・ピーマン・ししとう・ゴーヤ」を育て、収穫しました。身近にあり、健康に良い野菜をもっと知り、話し合いがしやすいようにグループワークを



野菜をもっと食べよう！



楽しいグループワーク中です！

しました。最後にグループで簡単な野菜クイズを回答しお互いに理解し合いました。グループワークで挙げた好きな野菜、苦手な野菜は「トマト・ピーマン」がほとんどで「キャベツ・レタス」など同じものであったことが驚きです。苦手な理由は「見た目が悪い。においが嫌い。」「好きな理由は「歯ごたえがいい。あまい。色がきれい。」「などがあり、炒めたり、煮るなどの調理をするより好きになるという意見もありました。栄養の話し合いは毎回好評で、「自分で思っていたより知らない事がたくさんあったので聞いてよかった。また企画して欲しい。楽しかった。」という意見がありました。今後も栄養の勉強会をしていきたいと思います。

（有馬 恵子）

一九七七年十二月二日第三種郵便物認可（毎月二、三、四、五、六、七の日は十八回発行）
二〇一二年十一月六日発行（SSKP通巻五二二号）

シリーズ自立

日の出舎

堀口 勤さん

堀口さんは以前通所で日の出舎を利用していましたが、進行性の難病により身体が思うように動かなくなり、退所され東京都奥多摩町の自宅で家族と生活されています。

①日の出舎に入る前の様子

青梅市にある車の部品製造工場で19歳から22年間働いていました。40過ぎになり、少しずつ身体の動作が鈍くなりました。病院へ行き検査したところ「シャルコー・マリリー・トゥース病」と診断されました。その後、会社で働く事が困難になり退職しました。

②日の出舎に入るきっかけ

会社を辞めた後、御兄弟と共に車で通勤できる施設を探したところ、自分の条件に合う場所がありました。それが日の出舎でした。

③日の出舎での様子

日の出舎への通所は奥多摩町に住んでいるということもあり、日の出舎での送迎サービスは難しく、車で自ら運転

して通っていました。作業は木工を中心に行ないましたが、忙しい時は受託作業も手伝いました。皆で仕事している時は本当に楽しい時間でした。

④日の出舎に通えなくなった理由

シャルコー・マリリー・トゥース病の進行により、車の運転が難しくなり始め、通所日数を減らして通所を続けていましたが、ついに運転が出来なくなり、通所が困難になってしまいました。

⑤現在の日の出舎との関わり

通所出来なくなつてからも日の出舎との関わりを持つため、しばらく日の出舎に在籍していましたが、通所できる方法が見つからず昨年退所手続きをとりました。

退所後、日の出舎の建て替えに伴い、短期入所の利用の話が出てきました。旧館の時とは異なり、完全個室の短期入所である事から、定期的に短期入所利用を行なうようになりました。

現在は、ご本人・お母様・お兄様の3人暮らしをしながら、週一回奥多摩町のデイサービスを利用し、1〜2カ月に一度日の出舎の短期入所を利用しています。

堀口さんは進行性の病気と闘いながらも、明るく前向きな姿勢で人生

を楽しんでおられます。ご自宅ではスマートフォンでゲームをする等、「まあ不便な所だけど、携帯もつながらず、自然の中で生きていくっていうのも悪くないね」とおっしゃっていました。

（聞き取り・構成 加藤 圭介）



堀口 勤さん



発行所 障害者団体定期刊行物協会 郵便五十四
東京都世田谷区清六の二六の二一
編集人 社会福祉法人 泉会

製品紹介

泉の家

「ワンワンボキボキクッキー」

泉の家の犬用おやつに新たに加わった仲間を紹介します。「ワンボキ」という愛称まで見込んで名付けて下さったベルヴェット動物病院の鈴木院長先生は、ポランディアの方の紹介で泉の家で製造している「ワンちゃんのためのクッキー」を知り、アレルギーの原因となりやすい食物を使用しない商品の開発について、具体的な助言と共に提案して下さいました。アイディアを出し合い試作を重ねること約半年、粉碎したビーフレバーを練りこんだ、甘味のあるお羊の生地を、ボキボキと少しずつ折つて与えられる形状に仕上げ、全く新しい商品が完成しました。色々な人の力で誕生した新商品を皆さんへの感謝の気持ちを大切に、丁寧に手作りしています。

「問合せ先」

泉の家 03-3417-3451

担当 小林玲奈



ワンワンボキボキクッキー

左:ワンワンボキボキクッキー200円
右:ワンちゃんのためのクッキー150円